

NTTアドバンステクノロジー

# 人材力を強化して、OSS活用ビジネスを積極的に推進

LPICレベル3の認定者43名をはじめ数多くのOSS関連資格取得者を擁するNTTアドバンステクノロジー（以下、NTT-AT）。同社は、NTT OSSセンタと連携した社内でのOSS活用推進に加え、OSS技術者の育成を一段と強化し、OSSを用いた各種サービス/ソリューション/システムの開発・展開に積極的に取り組んでいる。

## NTT OSSセンタと連携し、社内でのOSS活用を推進

NTT-ATは、NTT OSSセンタが提供するトータルサポートサービスやOSSのソフトウェアスタックである「OSSVERT」の積極的な活用、さらには同センタが主管する技術セミナーや技術交流会への参加など、同センタとの連携を基軸に、社内でのOSS活用を積極的に推進している。

NTT-ATの南部取締役は、「弊社のシステム開発の60%強は、OSSを活用しています。その意味では、NTT OSSセンタとの連携は不可欠で、2010年4月～12月までの同センタへの問合せ件数は108件にのぼっており、システム運用時の故障復旧支援等の個別支援サービスも利用しています」と述べている。また、アプリケーションSIビジネスユニットの芳西副BU長は、「技術検証済みのOSSの組合せ製品群であるOSSVERTを活用することで、効率的な開発が行えます。また、若手技術者を技術セミナーに参加させることで、実践力を持つOSS技術者が拡大しているほか、OSSの最新技術や開発動向が紹介される技術交流会への参加により高スキル



NTTアドバンステクノロジー(株)

[左] 取締役 アプリケーションソリューション事業本部長



[中] アプリケーションソリューション事業本部

アプリケーションSIビジネスユニット 副ビジネスユニット長



[右] 開発推進部 OSS技術センタ長

南部 明氏

芳西 崇氏

佐々木 主税氏

者が増加しています」と語る。

NTT-ATは、社内でのOSS活用推進に向け、社内ポータルを効果的に活用している（図1）。このポ

ータルサイトには、OSSVERTについてのノウハウも紹介されている。OSS技術センタの佐々木センタ長は、「私どもは、社内ポータルを活

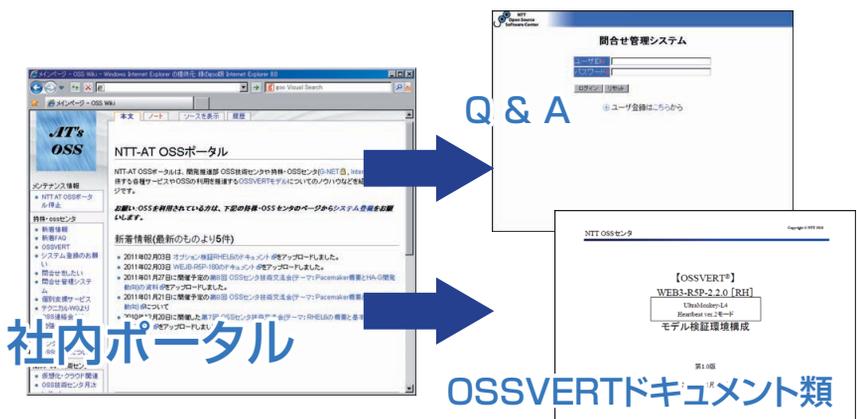


図1 社内ポータルを活用したOSS情報発信

用してOSS関連の情報発信を行っています。この社内ポータルから、NTT OSSセンターへの問合せや、OSSVERTドキュメント類の入手、社内のOSS情報共有が可能となっています」と述べている。

### OSS関連の人材力を強化

NTT-ATは、全社の重点施策の一つとして、「人材力の強化」を掲げ、強化策を展開している。図2に示すように、スキルを客観的に自己認識する“Check”からスタートし、自立的スキルアップのPDCAサイクルを回すというものである。

OSSの活用を推進するためには人材力がカギになる。OSS技術者につい

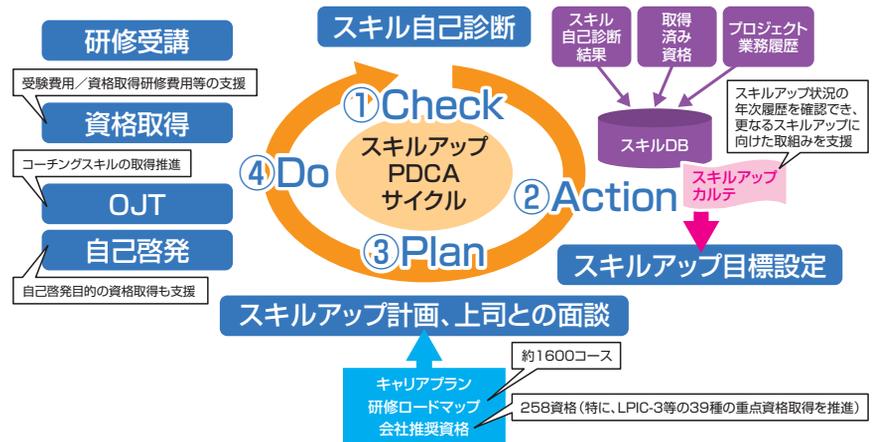


図2 人材力強化施策の概要

ても、全社の人材力強化施策に則して強化を図っている。強化施策の展開にあたっては、特にOSS関連の研修を充実させるとともに、LPIC（Linux技術者認定試験）を中心にOSS関連資格の取得を積極的に奨励している。

2011年1月時点のNTT-ATにおけるOSS関連資格保有者数を表1に示すが、400名を超えるLPIC認定技術者、約70名のPostgreSQL技術者など数多くのOSS技術者を擁している。中でもLPICレベル3の

## 世界で最初のLPI-304認定者3人のうちの一人に

2010年1月から4月にかけて、世界中のLinuxエキスパート300名の協力により、LPI（Linux Professional Institute）が主催するLPIC（Linux技術者認定試験）レベル3のLPI-304 Virtualization & High Availability Exam（以下、LPI-304）のベータ試験が行われた。ベータ試験は、正式リリース前の試験問題開発中の試験で、これにより新しく開発された試験の検証が行われる。300名のLinuxエキスパートがボランティアで参加したLPI-304ベータ試験の合格者は、わずか3名という超難関試験であったが、NTT-ATの伊藤 雄（たけし）氏が見事合格した。LPICは、ベンダやディストリビューションに依存せずに、Linuxの技術力を中立的に評価する認定試験である。スキルに応じて、レベル1からレベル3までの3段階がある。

伊藤氏は、ネットワークのアウトソーシング業務に従事しているが、社内の奨励資格となる前の2004年にLPICレベル1を取得して以来、ほぼ毎年受験を続けている。きっかけについては、「Solaris中心から、業務でLinuxをはじめとするOSSを扱う案件が増えてきたことから、自分の知識レベルを確かめる腕試しにはちょうど良かった」という。また今回、世界初となるLPI-304認定者の一人となったことについては、「304試験は、主に仮想化と高可用性が主題でした。私自身、業務を通してスキルアップを図るだけでなく、自宅で勉強用にサーバを設置し検証環境を構築しました。もちろんOSSを使い安価にです。座学だけでなく、実際に



NTTアドバンステクノロジー(株)  
ネットワークソリューション事業本部  
ネットワークアウトソーシングビジネスユニット主査 伊藤 雄氏

手を動かして仮想化環境を構築した経験が活かされたと思います」と語る。

伊藤氏は、今回の試験勉強で得た経験をクラウドコンピューティング基盤の構築及び運用業務に活かしていることはもちろん、LPIC-3認定者増加のための社内講師を務め、人材力強化に貢献していくとしている。最後に自宅のサーバ環境の増強については、「さすがにもう限界です」と笑って答えた。

## OSSの活用推進を加速するNTTグループ —NTT OSSセンタを核にした各社の取組み—

表1 OSS関連資格保有者数(2011年1月現在)

実施団体	資格名	資格保有数
LPI	LPIC-1	257
	LPIC-2	101
	LPIC-3	43
計		401
PostgreSQL	PostgreSQL CE Silver	61
	PostgreSQL CE Gold	8
計		69
Red Hat	Red Hat Certified Engineer (RHCE)	23
	Red Hat Certified Technician (RHCT)	1
計		24
Sun	Sun Certified Java Programmer Java2 (JDK1.2)	1
	Sun Certified Java Programmer Java2 (JDK1.4)	4
計		5
Citrix	Citrix Certified Administrator (CCA)	4
計		4
TurboLinux	Turbo-CE	4
計		4
Rubyアソシエーション	Ruby Association Certified Ruby Programmer Silver	1
計		1

重点資格

資格を43名の社員が取得しているが、これは驚異的な数字である。

「重点資格としてLPIC-3及びPostgreSQL CE Goldの取得に特に力を入れています。2010年度は、LPICの取得者数の大幅な増加(約20%増)を見込んでいます。世界で最初のLPI-304認定者3名のうちの1名が弊社社員であったため、その社員が社内講師となって、LPIC-3の取得を推進していることから、特に重点資格取得目標であるLPIC-3は約2.5倍を見込んでいます。」(南部取締役)

冒頭、NTT-ATで開発するシステムの60%強がOSSを活用していることを紹介したが、その背景にはNTT OSSセンタの存在に加え、社内のOSSに関する人材力の高さがあってのことといえる。

### OSSを活用した各種サービス／ソリューション／システムを展開

NTT-ATの全開発プロジェクトにお

けるOSSの導入率は年々増加しており、2010年度上半期の開発プロジェクトの60%強がLinuxベースで、PostgreSQLの導入率も約30%となっている。APサーバのTomcatやWebサーバのApacheについては25%～30%強であるが、Webベースのシステム開発が比較的少ないNTT-ATの全プロジェクトでのOSS導入比率であることを考えると、ほとんどのWeb系のシステムではOSSが活用されているといえる。

「お客様からのTCO削減、ベンダーロックインの回避のご要望が多くなっており、OSSの活用は避けて通ることができなくなっています。これはNTTグループ企業のみならず、グループ

外のお客様も同様です。その意味では、OSSに関する人材力をさらに強化し、ビジネスを拡大していきたいと考えています。」(芳西副BU長)

NTT-ATは、開発プロジェクト以外でも、OSSを活用した独自のソリューションを市場展開している。

その好例が、SaaS型で提供している「議会向けソリューション」である。本ソリューションは、議会ポータル、会議録／議会映像公開サービス「Discussシリーズ」、政務調査情報検索サービス「PowerFinder」、議会向けQ & A公開サービス「MatchWeb」からなるSaaS型議会向けプラットフォームである。OSSVERTを活用し、より低コストで、より簡単に、より高いセキュリティの下でサービスを提供することを可能にしている。利用する議会や自治体にとっては、システム導入及び運用コスト削減と職員の業務効率化、さらには情報公開の促進、住民サービスの向上を一度に実現できるというメリットがある。

また映像ソリューション分野で

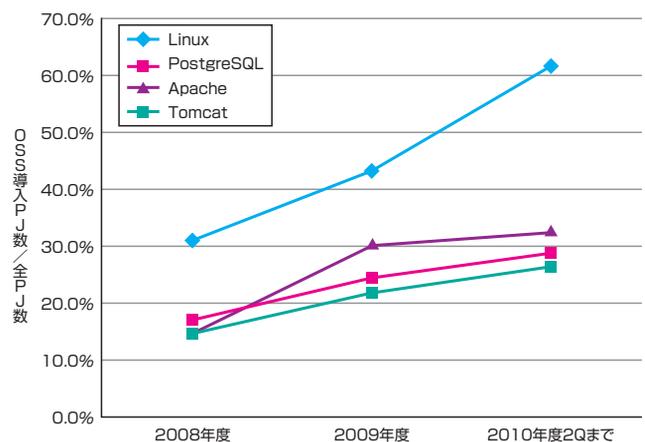


図3 NTT-ATにおけるOSSの導入率の推移

は、ストリーミング映像やファイル、テロップなど様々なコンテンツを統合的に配信できるマルチキャスト統合配信システム「ContentsArena」の統合管理サーバに、PostgreSQL、Apache、Tomcatを適用している。

さらに、ホーム機器やオフィス機器をネットワークにつなぐことで豊かな暮らしや便利なオフィス環境を実現する「ホームICTサービス」が注目されており、2010年11月末よりフィールドトライアルが展開されている。このサービスに今後導入されるサービス基盤にはOSSVERTの適用が決まっている。NTT-ATは、NTT研究所の研究成果をもとに、ホームICT基盤の開発や、ホームゲートウェイへのOSGi（Open Services Gateway Initiative）フレームワークの組込みを実施しながら、本分野の各種ソリューションを手がけてきている。

南部取締役はホームICTサービスについて「私どもはNTT R&Dの研究試作や商用開発の経験で培った技術知識、専門スキルやノウハウ、維持・運用経験を有しています。また、多数のメーカーのICT機器の技術仕様に関するノウハウを蓄積しているほか、ホームICTのデモシステムや各種トライアルシステムの開発で、数多くのアプリケーションを開発した実績があります。さらに、フルOSSのOSSVERTを用いて、高可用、高信頼、高性能等のネットワークインフラに準じる要件（例えば、数百万台規模のホームゲートウェイを管理）を満たす大規模分散システ

ムを設計・開発・構築した実績を持っています」と、NTT-ATの強みを強調している。

### 仮想化NI/SIソリューションの展開と、Android対応に注力

NTT-ATは、OSSを活用したビジネス領域の拡大に向けた今後の展開として、大きく2つのソリューションを視野に入れている。1つは、XenやKVMに代表されるオープンソースの仮想化技術を用いた仮想化NI/SIソリューションで、もう1つはスマートフォンやメディアタブレット向けオープンプラットフォームのAndroidへの対応である。

#### ●仮想化NI/SIソリューション

NTT-ATは、コスト削減、省エネ、CO<sub>2</sub>削減等を目的に、「オープンソースの仮想化技術を用いたサーバ統合化」を中心に、「仮想化NI/SIソリューション」として、以下の6つを柱とするビジネスを展開する方針である。

- ①各種ベンダ認定資格等を保有し、企業や自治体のネットワーク・サーバの設計、構築経験の豊富なSEを多数擁していることを強みに、「サーバの仮想化統合」をはじめ、ネットワークを効率化する近道を提案。
- ②特定ベンダのハード／ソフトの導入にとらわれることなく、顧客の利用環境、予算に最適にフィットする仮想化システムをマルチベンダで提案。
- ③OSSの積極的な利用を推進し、構築にかかるコストを抑えつつ、最新の仮想化技術を取り入れた最

適な仮想化システムを実現。

- ④24時間365日のシステム運用をサポートするデータセンタ「ICT-24オペレーションセンタ」と、アプリケーション開発の専門組織を社内に保有。
- ⑤顧客の既存システム分析から、解決策の提案、構築後の保守・運用フェーズまで、ワンストップで課題解決をサポート。
- ⑥仮想化技術の導入を検討の際に、顧客が利用中のアプリケーション等を事前に検証することができる検証環境として「仮想化ソリューションセンタ(仮称)」を提供。

#### ●スマートフォン／メディアタブレットへの対応ビジネス

NTT-ATは、昨年から爆発的に普及が拡大しているスマートフォンやメディアタブレットへの対応について、次の3つのビジネスを視野に取り組んでいく方針である。

- ①スマートフォン／メディアタブレット用アプリケーションの開発
- ②PCや携帯アプリのポータリング
- ③スマートフォン／メディアタブレットを活用したシステム開発

南部取締役は、「LPIC認定技術者を多数擁していることを活かし、Linuxベースのモバイル用オープンOSとミドルウェア、主要アプリケーションからなるソフトウェアスタックパッケージであるAndroidに注力していきたいと考えています」とビジネスの抱負を述べている。

お問い合わせ先

NTTアドバンステクノロジー(株)

E-mail : inquiry@ml.ntt-at.co.jp